

令和6年3月吉日

学生ならびに保護者各位

三重看護専門学校
学校長 今野 信太郎
〔公印略〕

学生による授業・臨地実習に関する評価について

平素は、本校の教育のために何かとご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

見出しの通り、学生のみなさんのご協力を得て、令和5年度の教育評価を行いましたので、ご報告します。

1. 目的

- (1) 学生による授業・臨地実習に関する講師（教員）の評価を実施し、その結果を基に講師（教員）が今後の授業の工夫や改善、シラバスの充実など教育の質の向上を図る。
- (2) 学生が授業・臨地実習に関する評価を記入することにより、自身の学習姿勢を振り返り、主体的な授業参加態度を養う。

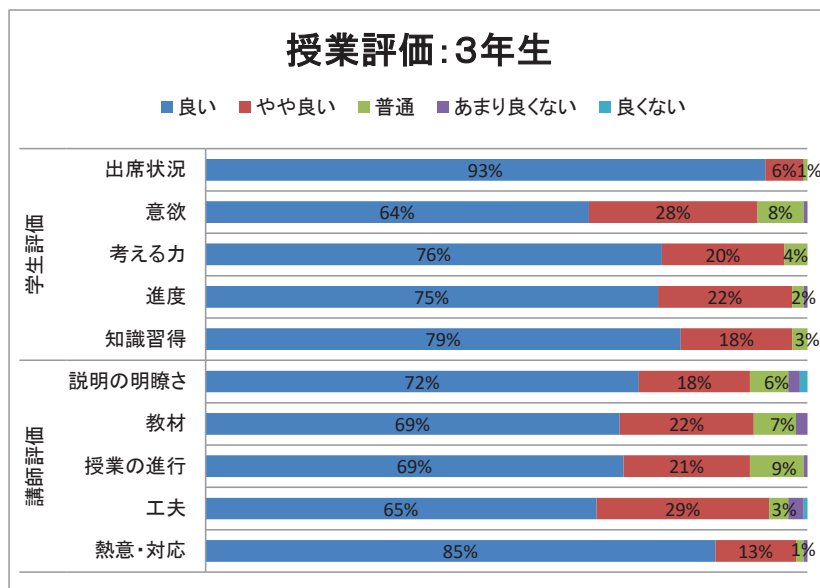
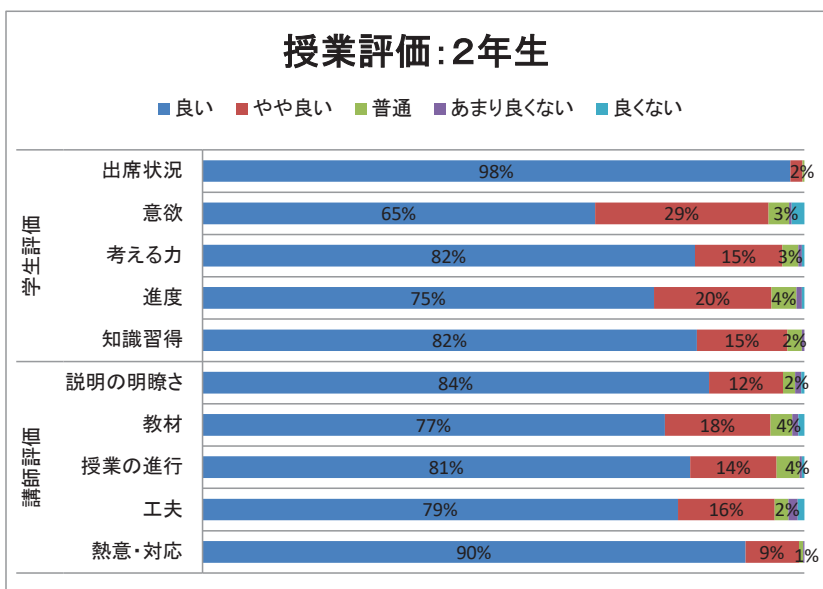
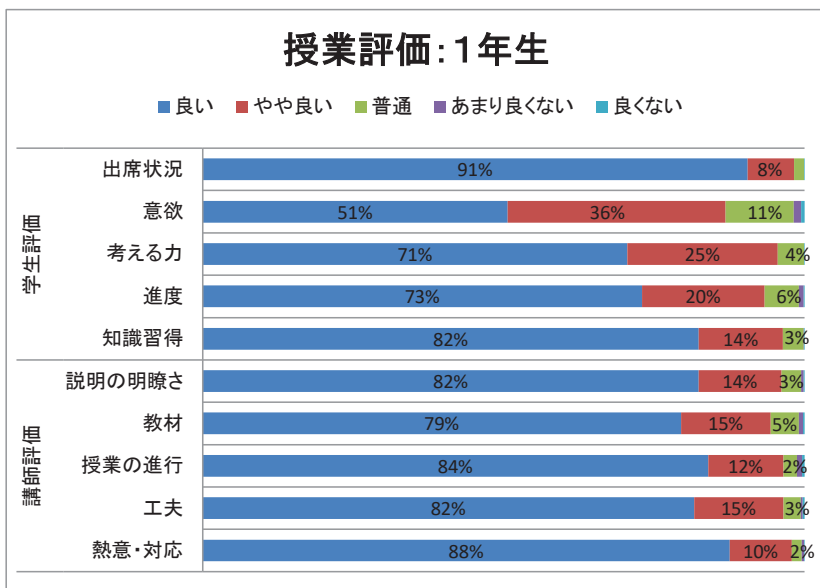
2. 実施方法

- (1) 授業については、複数回の講義がある科目を対象に実施している。
実習については、2週間以上の病院の実習を対象にしている。
- (2) 評価内容は、学生自身の評価と学生からみた講師（教員）評価を項目化し、5段階評価とする。自由記載を設け、記載者名は無記名とする。
- (3) 評価は、最後の授業時、または実習終了時に5分程度時間をとって記入する。
- (4) 評価表は学生のスマートフォンに配信し、学生が入力する。
集計は第3者（事務）が、集計し結果を出す。
- (5) 評価結果を担当講師（教員）に1か月以内に通知する。
年度末には、全体結果をまとめ、自己点検・評価委員会で報告・検討する。
- (6) 年度末に学生・保護者に結果を報告する。

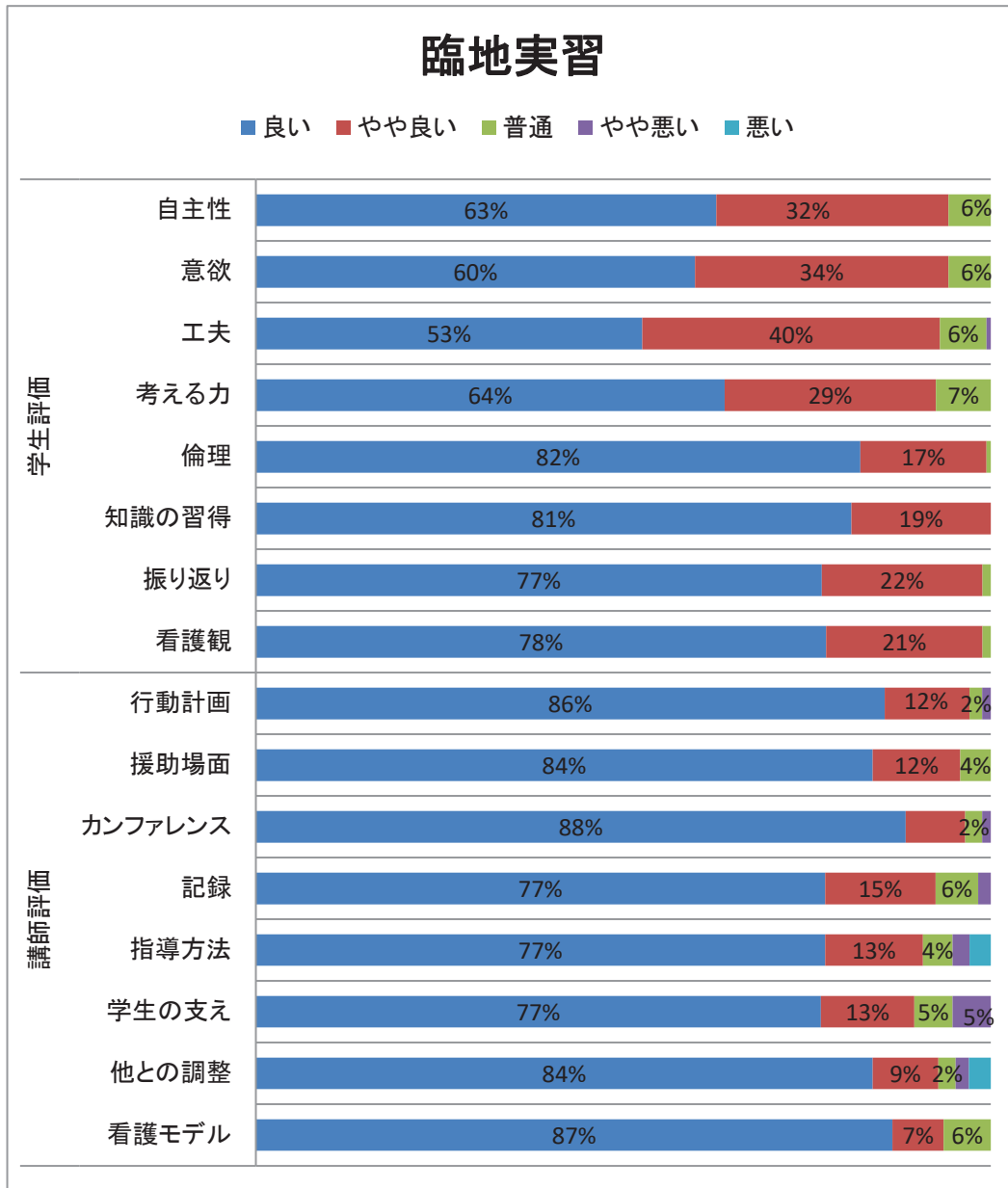
3. 令和5年度授業評価結果

- (1) 対象となる科目：62科目 講師（教員）数：54名
- (2) 回収率：87.2%
- (3) 授業評価結果（資料1参照）
- (4) 実習評価結果（資料2参照）

令和5(2023)年度 授業評価グラフ



令和5年度 臨地実習評価グラフ



4. 総評

学生全体の授業に対する設問では、「出席状況」「受講して新しい知識・視点・考え方が習得できた」に対しては高得点の自己評価をしています。しかし、「予習・復習など意欲的に取り組む」に対しては弱い傾向が伺え、この結果は成績にも現れています。

1年生は、再試験・再履修対象者が年々増加傾向にあり、新しい知識・考え方が習得できたという高評価に対して反比例しています。授業で知識・考え方が習得できてもその場限りではなく、知識を持続していくことが大切であり、復習方法や時間、試験に向けての学習計画、日々の学習習慣、特に家庭生活での時間の使い方が大切になってきます。教員のさらなる学習への動機付け、詳細な学習計画の指導が必要と考えます。

2年生は、1年生と同様で出席状況は良く、予習・復習は弱い傾向にありますが、専門科目が多くなり、疾病や看護に興味関心が高まり、新しい知識・視点・考え方の習得ができていると考えられます。その一方で、自由記載から学ぶ量や授業の進度・理解に困難を感じている学生も少数伺えます。チューター教員が個々の学生の状況を把握し、継続して問題解決していくことの必要性和、学生は自分自身が持っている知識を更に深く広げていく学習者になっていくことが求められています。

3年生は、領域実習時間が大半を占め、授業科目は少なく実習の合間に授業が入ります。そのため授業と実習の両立に余裕の無さが推察されます。引き続き実習との両立ができるように具体的なアドバイスを行っていきます。

学生による外部講師・専任教員に対する授業評価は、全学年自己評価より高い傾向にあります。講義内容や方法は概ね良いと考えられます。昨年より新カリキュラムになり、学生の主体的な学び、意欲や考える力を伸ばすための参加型討議、体験、調べ学習、反転授業（予習・復習のための課題提示）が更に充実するような取り組みも考えています。

実習に対する学生の自己評価は、「事前学習や日々の学習に意欲的に取り組む」「講義や演習と関連付ける」「自分なりに考える力」に対して課題があると評価しています。実習前に事前学習を提示、学習時間の確保や環境を整えて取り組みやすくしていますが、一部の学生に自主性・積極性に課題があるように見受けられます。臨地実習では知識と関連付けて学生自身が思考し判断していく力が求められます。教員は臨地での看護場面において、学習内容を想起させる発問、講義資料や教科書に戻りながらの学習方法を示唆することが大切であると考えます。

教員に対する実習評価は、設問のほとんどが高い評価であり特に、行動計画や援助場面、カンファレンスでの指導が比較的高得点となっています。一方で実習指導者との調整を求める意見もあります。教員はこれまで以上に不安と緊張を抱えながら取り組んでいる学生がいることを念頭に置き、相談しやすい雰囲気づくりをし、実習指導者と学生との関係がより良い学びにつながるよう努めることが大切であると考えます。

今後も、授業評価・実習評価を基に学生・教員それぞれが真摯に振り返り、自己の成長に繋げ理想の看護師育成に近づけるように努力します。